

第19回日韓対抗学生自転車競技大会報告書

第19回日韓対抗学生自転車競技大会が11月2日(土)・3日(日)に大韓民国羅州市自転車競技場(333.3m)で開催された。日本チームは井関康正氏を団長・川邊哲氏を副団長として、男子は大学生5名、高校生5名、女子は大学生3名、高校生2名の体制で臨んだ。

<Sprint>

男子大学部：バンクコンディションが悪い中でも優勝した韓国の Son Je Yong には予選でも11秒077と抜群の力を見せつけられた。対戦で2位の Lee Young Kyu に対し、佐伯(中央大学)が準決勝2本目を頭脳的な逃げきりで勝利するのがやっと、結局は3位宮本(中央大学)・4位佐伯に終わる。

男子高等部：決勝の1本目で野上(岡山工業高校)が優勝した Yoon Jun Young(予選タイム11秒165)に力強い捲り追い込みで勝利するも2,3本目を取られ2位。滝本(岡山工業高校)は4位に終わる。

女子部：予選タイム、対戦スキルともに圧倒的な力の違いを見せつけられ、丸田(法政大学)が3位、中村(日本体育大学)が4位に終わる。

<Individual Pursuit>

男子大学部：4km：倉林(日本体育大学)がラスト2周で鮮やかな逆転(0秒781差)4分56秒902で優勝。伊藤(早稲田大学)が5分01秒995で3位。

男子高等部：3km：森口(和歌山北高校)が前半から突っ込んで粘り切り(0秒58差)3分42秒692で優勝。塩田(栄北高校)が3分54秒880で4位。

女子部：2km：小島(日本体育大学)が積極的な攻めの走り(2位に5秒32の大差)2分39秒250で優勝。元砂(榛生昇陽高校)が2分47秒346で3位。

<1km Time Trial>

男子大学部：末木(日本大学)が難しい走路を克服して1分08秒992で優勝。佐伯はSprint準決勝3本目直後のレースと言う事もあり、1分14秒970で4位と振るわなかった。

男子高等部：韓国の選手が1分07秒904と1分8秒386で1,2位を独占。野上は1分08秒859と健闘するも3位。滝本は1分11秒081で4位。

<500m Time Trial>

女子部：1kmTT男子高等部と同様に韓国の選手が37秒766と38秒358で1,2位を独占。小島が39秒037で3位。鈴木(星陵高校)が39秒196で4位。

<4km Team Pursuit>

男子大学部：倉林、伊藤、末木、佐伯のメンバーで臨むも、韓国チームの安定した走りでの4分38秒984に対し、日本チームは足が揃わずに4分45秒094のタイムで敗れた。

<Team Sprint>

男子高等部：野上、滝本、田邊と 3 名の岡山工業高校の走り慣れたメンバーで臨んだが、韓国チームの 1 分 05 秒 958 のタイムに対し、日本チームは 1 分 8 秒 751 のタイムで敗れた。

女子部：小島、鈴木のメンバーで臨み、韓国チームの交代違反もあり、日本チームが 51 秒 076 のタイムで勝利した。

<Keirin>

末木、宮本、田邊のメンバーで挑戦した。作戦通りに田邊がスタートでペーサーの後ろを取ったが、バンクの特性を活かした韓国選手の(ガッツ)が上回り、ラインを組めないままに奪われてしまう。末木は上手く切り替えたが、宮本と田邊は後方のまま何も出来ずに終わる。末木 2 位、宮本 5 位、田邊 6 位。

<Scratch>

女子部：小島、中村、丸田、鈴木、元砂の 5 名全員で臨んだ。途中何度か逃げを試みる選手がいたが決まらない。満を持して小島がラスト 2 周からスパートしたが、ここでも韓国選手のガッツ溢れる猛追に遭って優勝出来なかった。小島は不運にも 3 コーナーで優勝した韓国選手との接触後に落車 DNF。鈴木 2 位、元砂 3 位、中村 4 位、丸田 5 位。

<Point Race>

男子部：距離 20km(60 周回)で実施され、最終種目と言う事もあり、日韓それぞれ全員参加の 20 名で争われた。白熱したレースが展開されたが、日本チームの連携が決まり上位を占める事が出来た。倉林 1 位、伊藤 2 位、末木 4 位、塩田 6 位、野上 DNF、田邊 DNF、森口 DNF、宮本 DNF、佐伯 DNF、滝本 DNF。

<総合成績>

男子大学部：日本 30 点 対 韓国 26 点 日本が+4 点で勝利。

男子高校部：日本 12 点 対 韓国 32 点 日本が-20 点で負け。

女子部：日本 25 点 対 韓国 28 点 日本が-3 点で負け。

総合：日本 67 点 対 韓国 86 点 日本が-19 点で負け。

尚、2 種目制覇の倉林(日本体育大学)が優秀選手賞を獲得した。

<課題>

大学生はインカレ、高校生はインターハイ、更には国体が終了して 1 ヶ月が過ぎている為なのか、残念ながら調整不足を指摘されても否めない代表選手がいたかと思う。きちんと実力を発揮する(発揮させる)為にも選手は勿論、我々コーチも代表決定後、直ちに目標設定と意識高揚の為の集まり(合宿等)の必要性を感じた。それにしても韓国選手のレース中に見せるファイティング・スピリットには驚いた。又、韓国選手、特に高校生の筋骨隆々とした体付きには信じ難いものがあつた。国際大会で戦う為には重いギヤ比を踏みこなす為にも回転力

強化と同時に筋力アップが大きな課題に成るかと思う。

<国際交流>

大会名から『親善』の文字が消えて久しいが、競技中以外に措いては選手、コーチ、大会関係者との雰囲気は非常に良いと思う。2日(土)の夕方には日韓両国合わせた選手30名をメインに大会関係者総勢約80名による懇親会が開かれた。お互いの国を理解し合う上に措いて、選手も我々コーチにとっても素晴らしい交流の場になった事は言うまでもない。

男子大学 コーチ 添田広福

*詳細記録はリザルトを参照して下さい。